磐城商工時報

第三回發行五、十五、廿五日
發行兼編輯人印人　渡邊源吉
印刷所　磐城商工時報社
發行所　福島縣平田町二番地
廣告料　五號十四字詰一行廿錢　場所指定十錢增
新聞定價　一部五錢　一ヶ月十錢　一ヶ年一圓六十錢

本紙を擔へ
更生の願誓

安川天龍

光陰矢の如く一介の文筆勞働者として何等鄕土に文献なさず漂浪流轉の旅を續ける事春風秋雨五ケ年茲渡邊氏の經營に依る商工時報と銘打てる本紙を擔いけん土重來の意氣尖鋭耐に現下の鄕土に暗雲低迷する政治思想經濟難局打開するのため遠大なる思想を把持し筆端火を吐く文陣に意義大く如何なるサタン（惡魔）に遭遇しよと自我の鐵塔に鞭打ちて飽く迄嚴正公平なる立場に立脚し鄕土發揚のため貢献せんとす冀ば今一度本紙を擔ふて更生の意圖に立つ私に對し先輩有志諸士の熱切なる庇護と御後援あらん事を熱望します。

平町文化の中心
三丁目に二大汚點
之の殿堂を如何に利用する間の扱けた樣な有志連中

逐日發展に倶ふたる現在の平町は總べての文化原動を投げうつところは中心銀座街頭最も繁華なる三丁目茲に横たわる二大殿堂を醜もさらけ出さなければならぬ運命が來た、磐城銀行は休業以來今日迄二年有餘現在の所では辛じても更生の途に着きつゝあるにしても困るものは小野伊三治氏外十一名による所有地たる平郵便局である後僅かにて四丁目に移轉されねばならぬ事になつてしまつた、しかも目拔きの繁華を見つゝあつた三丁目も郵便局の去つた、後は如何に利用して郵便局に繼ぐ美觀を呈さねばならぬかを考慮せなくては

酒は末廣に限る……
平南町　志賀吟吾

町發展を思ふならば自覺せねばならぬ地主
地價の不調から決裂
四丁目に移轉さる

四丁目に移轉さるゝ理由は地價の問題である遞信省で再三三丁目有志間と折衝なして地價の協定に對し或る程度迄賣渡し地價の範圍内迄歩を進めたなれと以外なる、最高地價にて遞信省も豫算通りに充當せず終いに目覺められたる四丁目有志連中の運動により遞信省との地價料金協定なし早くも建築に取係るの有樣で今になつて有志連中が如何に羨望の目を見張つても取り返しの着かぬ事になつてしまつたのである。

元來一郵便局のみの問題許りでなく今や現下の平町は發展の過度期にある今日に於て少くとも所有地者があまりに個人的觀念に基き資本主義的により社會を達觀せざる態度に出ずるため發展せんとする町も阻害され況や大平市を建設に於ては今一歩進んで個人利害を沒却し町發展の爲進んで載き度いと思ふ。

投稿募集

生活迄脅威を享ける現今弱者に對する總ての支配階級が自已のため毒牙を研いで死に至らしむる迄各新聞によつて散見するの狀態を示しつゝある秋本紙は飽く迄如した邪惡なる陰作的行動により善良なる民衆を苦

信用ある商店案内記

石城郡の中邑市たる平町は常磐海岸通りとしての最も漁業炭礦界の中心たる商業發展地として遠く水戸仙臺方面に迄商業擴張されつゝある今日の信用ある商店の中堅となつて働く番頭或は主人一面觀を遠慮なく信用ある商店案内記として紹介して見る。

釜屋商店

和洋銅鐵金物磐城セメント代理店として金物は釜屋福島縣下はいざ知らず遠く東北的に噴々として名ある釜屋の金物と言ひば現在は誰しも知らぬ者はあるまい故久太郎氏は苦節今日迄キ〳〵とした小柄な身で鋭敏的商業手腕によつて今日の信用ある釜屋商店を築き上げたのである之の嚴父ある家に優ぐれたる子ありの如く亡き後は早稻田商業專門を終りし諸橋守次元三郎氏の兄弟新知識による商業的手腕は釜屋を支持するに當を得たと言ふよりも今や社會が經濟局難に直面しプロとブルとの鬪爭による問題、思想が騷しき今日資本家としての經濟組織による抱擁力とが重みのある大きな体驅を動かし乍ら呵々大笑一番すれば忽ち表示する例へば店頭に訪れる物貰へが二度も訪れ物を乞ふても一笑によつて若干を惠み心善く歸す處の共存共榮の態度は澤山居る番頭連中に迄感化され兄弟二人によつて支持する釜屋も益々信用を得る原動をなすものである

丸本家具店

氣分のよい家庭必需品としての家具製造のオーソリチーとして三丁目銀座街頭に店輔を有し製作工場を新田前に設け今や盛んに家具あるいは之れからの季節物しげなく得意廻りに騷がし冷藏器等を製造營業擴張して居る。

主を佐々木喜代次氏裸一貫現在の家具王と言われる迄の信用得るに並の苦節ではなかつた現在は平商業秀才出身の俊男光男兩兄弟が主体となり、感じの善いきびしい〳〵した營業振にて店一切の事務に當り共に大くの使用者を引具して親切第一を モットーとして居る所に益々家具は丸ほんの印象を需要者に深刻ならしめて居る

大黑商店

小間物化粧品

遠く宮城縣水戸市附近迄ハキハキした小柄な身も惜しげなく得意廻りに騷がし小間物化粧品の外交に自ら陳頭に立ち兄亡き跡は專心平商業學校出の營業手腕と取引親切をもつて進む馬目久二氏傍常磐銀行平支店前に洋品部を設け狐軍奮鬪を續け廉價品質優良を本位として客には親切を務める樣番頭小僧に迄篤勵に力めつゝ感じのよい店として毎日客は洋品屋として群を拔いて好況を示しつゝある

蒲鉾製造元　藤市

平町警察署通りの貳丁目に店舗を有し永年優秀なる製練された蒲鉾製造業として今や縣下でも有名なる製造元である且つては全國商工博覽會或は各地の博覽會に於て品質優良なるため銀碑金碑賞狀を受與されて居る主を遠藤市松氏永らくの病氣に衰ろへず會計一切の事務擔當一人娘にむこを取り製造一切に充當させ居る秩序の立てる營業振は益々得意先を擴張信用を得つゝある今夏も永年の如く氷水アイスクリームを特撰された技術によつてみなさんに味覺をそゝつて載きたく務めて居る。

豫告

鹿島村上矢田字坂下堤問題に關し某縣議の怪げなる策働より公有物とすべき堤を個人名義の元に縣が許したる事により部落民の死活問題裏面に醜怪事實が秘めて居るのではないか本社次號内容調査の上大衆の輿論に訴へ正義のために鬪ふ

迄も内容調査の上筆誅を以つて輿論に訴へ度者にすとし〳〵御投稿あらん事を希ふ。

磐城商工時報社
平町田町電話六番

磐城セメント特約販賣店
和洋銅鐵金物問屋
㊫釜屋商店
平町五丁目　電話九番　一三九番